

令和7年度 第1回舞鶴市図書館協議会 記録(抄録)

日時:令和7年5月19日(月)
午前10時30分～12時00分
会場:舞鶴市役所 612会議室

<1. 議事>

(1) 開会

(2) 図書館協議会 議事

議題① 令和7年度の東・西図書館事業計画について

議題② 図書館基本計画に基づく図書館再編の取組状況について

(3) 閉会

<2. 会議録>

(1) 開会 (10時30分)

(2) 図書館協議会 議事

議題①・②について事務局から説明

* 質問や意見は以下のとおり

①[議題] 令和7年度の東・西図書館事業計画について

(研修計画について)

- ・「課題解決のための取り組み」が1番最初に掲げられているが、中身をどんどん読んでいくと、子ども向けのサービスが多い。
- ・日本の従来の図書館は、子どもやお年寄りの場所、学生の勉強場所のイメージが強く、30代から50代の色々な課題を抱えている人たち向けのサービスがなくなっている。
- ・住宅ローンや両親の介護、子どもの教育、自分の会社も危ない、という世代の人たちへの支援が少ない。
- ・これは舞鶴だけではなく全国的な傾向であり、これについては、館長もよくわかっていて、働く世代に対するサービスに力を入れるための職員研修を計画にいられている。

(学校との連携について)

- ・学校の連携については、小・中学校が中心になっているが、舞鶴には工業高専やポリテクなどの短大もある。それから、海上保安学校や京大の水産実験場もあるので、これらとの連携がこれからの大きな課題だと思う。

(電子図書館について)

- ・電子図書館は、図書館のサービスすべてが電子化するというのが本来のイメージであり、図書館に行かなくても、メタバース図書館に行けばリアルな図書館と同じようなサービスが受けられる、というようなものだろう。

- ・24時間メタバースの中に本棚があったり、アバターがレファレンスを受けられるとか、図書館全体のサービスが電子化する、というのが本来の意味なので、ご理解いただきたい。

- ・非来館型サービスというのも、図書館を電子化して、来館しなくても図書館のサービスが受けられるということであり、この辺を少し整理していただく必要があると考える。

(ビジネス支援について)

- ・ビジネス支援ができる図書館は非常に大事であり、ビジネスの範疇は農業や産業だけでなく、行政も入っている。

- ・市議会議員がいつでも一般質問に活用できるとか、議論の材料にできるとか、地方自治体の図書館は地方議員をバックアップする能力も重要だ。

②[議題]舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館再編の取組状況について

(関係機関との連携について)

- ・視察先の図書館で、今まで自分で買っていたような本がたくさん並んでいて感動した。

- ・農業や医療に携わっておられる方にも、自分のお金で本を買う方がたくさんおられると思う。

- ・本に関する相談を充実させるためには、それぞれの専門分野のニーズを掴むことが大事なので、市役所の担当課などとも連携しながら、ハードの面だけでなくソフトの面も充実させてほしい。

(子どもと図書館との関わりについて)

- ・最近の子どもたちは、すごく紙離れしているので、舞鶴市がこれまでも大事にしてこられた、子どもたちへの支援も打ち出し、子育てしやすい街をアピールしてほしい。

- ・幼稚園の子どもは0歳から本を読む。字は読めないけど、絵を見て楽しんでいる。

- ・絵本を家庭に貸し出したら子どもは絶対に読むので、幼稚園で図書館の本が借りれるようになったら、子どもを通して貸出が増えるのかな、と思う。

- ・親子そろって図書館に来る習慣のある家庭は、国語や算数のテストの点数が高いという調査結果が出ている。そういうことも図書館は訴えてほしい。

(分館の充実について)

- ・中央図書館の整備は楽しみだが、東舞鶴に住んでいる方には「西ばかり」という感情も残っているので、「分館でも困らないよ」というのが見えてきたら嬉しい。分館の充実を大事にしてほしい。

- ・分館は、東地区や中地区に配置されているが、小学校や中学校も何か利用できないか。課題解決型図書館として取り組むなら、地域ごとの課題があるので、学校と地域がつながることも大事。分館は、情報サービスだけにとどまらず、地域強化の役割もある。どこまで学校

に踏み込めるのかはわからないが、気軽に足を運んで地域の人々が繋がれるような仕組みもできそうだと感じた

- ・分館機能の充実に向けて、中総合会館に学習スペースを作ることだが、先日、最上階のスペースを利用していたら、夕方5時か6時にエアコンが切れてすごく暑かったので、場所や時間帯はどうなのかなと思った。
- ・また、子どもたちが走り回って遊んだりしているのに、警備員は声をかけるでもなく、怖いと思った。
- ・大きな図書館ができれば、目が届かない場所も出てくるので、そのあたりも考える必要があると感じた。

→事務局より

中総合会館の自習スペースは、1階に設けようと思っている。空調も含めて、どうしたら使い勝手が良いか、検討を始めている。

- ・分館については色んな不安があると思うが、出来上がってしまったら、意外とそれに慣れてこられると思う。
- ・商工観光センターでは、中学生がゲームをしたり、お化粧したりしている。夜遅くまでいる学生もいて、施設の方も困っているという話を聞いた。
- ・また、中総合会館の現状を見ていると、下校時間になったら子どもたちが来て遊んでいる。1階スペースは勉強できるようなスペースではないので、分館が早く整備されたら、地域の方の様々な不安も解消できるのではないかな。

- ・分館については、「その地区の図書館は、その地区の人が使う」というイメージを多くの人々が持っていると思うが、強力な中央図書館ができるとそうじゃなくなる。
- ・簡単なことは近くの図書館で済まして、難しい相談は中央図書館で、というふうに使分けをするようになるので、「地域の図書館は、近隣の人のももの」という価値観が根底から変わるだろう。
- ・これはできてみないと実感できないことかも知れないが、このことを協議会の皆さんにはアピールしてほしい。

(自動車図書館について)

- ・自動車図書館のデモンストレーションもすごく良い。良い取り組みをするので、インパクトのある情報発信をしてほしい。

- ・自動車図書館で地域のニーズを把握するというのがイメージできない。地域のニーズの把握は、分館に託してもいいのではないかな。
- ・各分館のニーズを自動車図書館が集積して、各部署に情報を回すことはできるのではないかな。

- ・自動車図書館は最初は分館から始まるのか。それとも、全市的に手を上げたところから始めるのか。

→事務局

その点も含めて検討中だが、大浦地区から始められればと考えている。分館がなく、サービスが行き届いていないところへ行きたいと考えている。皆さんの意見を聞きながら決めたい。

・自動車図書館は、なるべく早い段階から試行的に活動するのが良いと思う。

・デモンストレーションカーの展示というのは、見本を借りてくるということであれば、「実際に公用車に本を積んで」というのは、買い上げた自動車ではなく、公用車に本を積んで回るといふことか。

→ 事務局
その通り。

・デモカー展示以降の、公用車での実際の運行はいつ頃になるか。

→ 事務局
試験運行を行った後、8年度か9年度からできればと考えている。

・そして車種や台数、積載冊数、運行ルートなどの詳細を検討してから、車を買うということか。

→ 事務局
はい。

・分館に本を回していく車と、自動車図書館の車は同じものか。

→ 事務局
別で考えている。

(中央図書館の活用について)

・政府も地方創生に力を入れているが、本当のところは東京が一人勝ちで、大阪も元気がなくなっている。石破首相は、これまで地方創生を担当してきた方で、「地方に補助金を出すのは重要だが、地方の主体性が大事。」とおっしゃっている。補助金をもらっても、市民が地域性を理解して、主体性を持って活動しなければ、地方創生は不可能。図書館がしなければならないのはまさにここで、まちづくりに役に立つ施設になることが最大の課題。交流スペースと言っても、ただの居場所なら、公民館や市民センターでいい。みなさんが議論をしているところに、司書が専門的な情報を提供する、というのが図書館の交流スペース。静かなコーナーで本が読めるのも図書館の機能であって、それがなくなるわけじゃない。まちづくりを支えていく、積極的な図書館の可能性を強くアピールすることも重要。

・図書館は本の中身を提供しているのであって、本を提供しているわけではない。

・小さい子には絵本が必要。例えば、計算するときいきなり電卓を与える親はいない。紙と鉛筆で基本的な計算ができるようになって初めて電卓を渡す。みなさんがエクセルを使えるのも、基本ができてから。

・基本を育てるには、絵本や読み物などのメディアが役立つ。そして、大人になったらデータベースなどのデジタルのものを使いこなすようになる。

・「生成AIがあるから図書館はいらないんじゃないか」という意見があるが、プロンプトの出し方で答えが全く違う。スキルがなければ、それなりの答えしか出てこないが、専門知識があ

れば、AIから高度な情報を引き出すことができる。そのためにも専門の図書館員が必要。

(図書館再編を進めるにあたっての考え方)

- ・中央館と分館はネットワークが張り巡らされているが、学校や施設との連携も重要だということを再確認したい。

- ・小学校との連携は書かれているが、こども園、保育所、障害者施設、病院との連携も必要。

- ・私自身、1ヶ月入院したときに、病院の図書室の蔵書が貧相で残念だったが、病院の図書室は心の支えになる。

- ・北欧では病院に必ず図書室があって、専門の司書がいる。暇つぶしはもちろんだが、入院患者に自分の病気についての情報提供をしている。

- ・患者中心の医療をしており、日本とは医療のあり方が違う。アメリカでも、患者と医者が病気について対等に議論をする。医者に対して情報量が少ない患者を支援するため、図書館は医療情報サービスをやっている。

- ・病院の図書室は暇つぶしではなく、病気と戦うために役に立つサービスをやらないといけない。

- ・図書館は時間と財力と健康な家族に囲まれている人たちだけの幸せな場ではない。

- ・お金のない人、時間のない人、体の不調で困っている人、失業している人など、様々な人々をバックアップする場だ。

- ・図書館のボランティアをもっと増強し、図書館のサービスをより良くするために住民と学校をつないだり、施設を応援するようなコーディネーターがほしい。

- ・最終的に市民と図書館で協働する事業が生まれると思うが、それをコーディネートする人も生まれてほしい。

- ・そして、ボランティアという名前ではなく、名前を工夫して育ててほしい。

- ・ボランティアはもともと「志願兵」という意味なので、「サポーター」や「プロデューサー」など、みんなが元気になる名前をつけてほしい。

- ・貸出のボランティアなどの要請も同時進行で進めていただきたい。

- ・司書の増員配置は非常に嬉しく、特筆すべき進歩。博物館には学芸員が必要だし、資格職のうち、市民で資格を持っている人はたくさんいる。そのネットワークを作ったほうが良い。

- ・司書は地域の実態や課題に即した蔵書ができるよう、トレーニングしてほしい。社会調査の能力を持っていなければ、司書とは言えない。図書館が無駄遣いになるかは、市民の文化度に関わっている。

- ・国会図書館の小型版ではなく、自治体の図書館であるので、自治のために役立つ図書館を作してほしい。

- ・市民のための研究所として、産業、医療、各種の連携機能を発揮してくださることを期待している。

(3) 閉会 (12時)